

- 1 報告地区 : 渡島  
2 事例報告学校名 : 福島町立吉岡小学校  
3 報告者 : 校長 本多 宏至  
4 キーワード : 「特色ある学校経営」と社会に開かれた教育課程の創造
- 

## 1 はじめに

福島町は渡島半島の南西部に位置し、人口およそ4,200人、千代の山・千代の富士と二人の横綱を生んだ町である。また、吉岡小学校区は、伊能忠敬が北海道測量の第一歩を記した地であり、平成30年4月27日（金）には、伊能忠敬翁銅像除幕式が盛大に行われた。町内小学校2校のうち、本校は、児童数18名、普通学級3学級（複式2学級）、特別支援学級2学級である。青函トンネル従業員の離町が目立つ前は500人を超える児童数であったが、現在は児童数・学級とも減少している。

さて、平成29年度から地域とともにある学校づくりについての構想や進め方について議論がなされ、平成30年1月より福島町立吉岡小学校学校運営協議会がはじまった。

この稿では、吉岡小学校地域学校運営協議会の取組について実践事例を紹介しながら、社会に開かれた教育課程の創造について考察していきたい。

## 2 学校の特色として

現在、平成32年度より全面実施となる新学習指導要領を踏まえ、これまでの学校の取組を生かし、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実にするための教育活動の展開を目指している。地域の人・物・施設・自然環境・歴史などを教育資源としてとらえ、積極的に教育課程に位置付けることで教育効果を高めていこうと考え、実践を進めている。

平成30年度の本校の重点教育目標は、「心豊かに活動する子どもの育成」～自ら学び、表現する意欲を持ち、明るく豊かな心と思いやりあふれる子どもの育成～である。地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりを進めていく役割の明確化や地域住民や保護者等による学校支援に関する総合的な企画・立案、学校との連携・協力を促進していく仕組みの検討など手探りのところはまだあるが、子どもにとっての魅力、教職員にとっての魅力、保護者にとっての魅力、地域の人々にとっての魅力を実感として得られるよう、学びや体験活動の充実を目指した取組をはじめに紹介したい。



### 【写真左：名刺を渡しながら交通安全を】

交通安全運動期間、地域の方々も街頭に立ち、児童の登校を見守りながら、交通安全を呼びかけている。どの地域でも行われている見慣れた場面であるが、地域の方々へ自分たちが誰であるかを名刺を渡すことで知ってもらい、より親近感をもって互いに交通安全の意識を高めていくことを目指した。地域の方からも、どこのだれかが分かってよかったし、声も掛けやすかったと好評であった。



### 【写真左：除幕式で松前神楽を披露】

伊能忠敬翁銅像除幕式の際、松前神楽を披露する場面があった。写真にあるように本校在籍の女子児童2名が松前神楽の演目の一つを披露している。

松前神楽は平成30年3月に国の重要無形民俗文化財に指定され、演目を披露している児童も松前神楽の伝承者として地域と関わっている。芸術鑑賞等の教材としても松前神楽を検討したい。

### 【写真右：町民合同運動会】

今年も5月27日（日）に合同運動会を開催した。福島町長はじめ、役場・教育委員会・地域住民が子どもたちと一緒に種目に参加し、和やかな時間を過ごすことができた。事前の種目内容の検討や前日の会場準備、もちろん当日の種目参加とみんなが役割を果たしつつ親睦を深めることができた。学校が地域のネットワークの一員として果たす役割の大きさや期待、責任の重さを感じた。



### 【写真右：PTA夏祭り】

子どもたちにとっては、夏休み前の一大イベント。とても楽しみにしているPTA主催の夏祭りである。チケット（前もって購入）をもって、ジュースを買いに行ったり、ゲームコーナーに行ったりするのである。今年は、子どもたちもゲームコーナーを担当し、地域の方とも触れ合いながら、夏のひと時を過ごすことができた。夏祭りの内容については、PTA・学校運営協議会の意見をもとに実施することができた。



### 【写真右：ふるさとを食べる集会】

福島町で有名な地元食材といえば「千軒そば」がある。ふるさとの味をそば打ち体験を通してしっかり味わってもらい、いつまでも心に残しておいてほしい。その思いを受け止め、地元のそば愛好会の皆さんとの出会いから、ふるさとを食べる集会として取り組んでいる。地域の方々も子どもたちに教えるとなると、力加減や包丁さばきなど一つ一つ後取りを育てるよう真剣そのものであった。



## 3 学校運営協議会

学校運営協議会の取組は、子どもたちにとっては、学びや体験活動が充実するだけでなく、自己肯定感や他人を思いやる心が育ち、地域の担い手としての自覚も高まると考える。また、交通安全・防犯・防災等への意識も高まり、安心・安全な生活に繋げることができると考える。教職員にとっても、地域の協力により子どもと向き合う時間が確保できること、地域人材を活用した教育活動の充実を図ることができると考える。さらに、保護者の方々にとっては、学校や地域に対する理解が深まるとともに、地域の中で子どもたちが育てられているという安心感を共有することでできると考える。地域の方々も学校が地域のネットワークの中心なるだけでなく、経験を生かすことができることで、生きがいや自己有用感をもつことができると考える。

学校は、校長が学校運営の基本方針を伝えますが、地域とともにある学校づくりには、常に保護者・地域の方々の要望・意見を積極的に受け止め、教育課程を創造していくことが求められる。吉岡小学校の学校運営協議会は、ふるさとの人材・素材を活用した体験的な活動を通して、地域の自然、歴史、文化を学び、ふるさとに対する誇りと愛着心を育む活動を推進すること、子どものより良い成長のために、学校・保護者・地域が連携を一層深め、3者が一体となって活動を推進することを目指している。

## 4 おわりに

吉岡小学校学校運営協議会は、はじまったばかりである。先行して実施している近隣の学校や先進的に進めてきている地域の事例を参考にしながら、139年の歴史ある吉岡小学校のこれまでの取組を生かし、さらなる教育活動の充実を図っていきたい。そのためにも、吉岡小学校地域学校運営協議会とともに社会に開かれた教育課程の創造を積極的に進めたい。

